



GIFU PHYSICAL THERAPY ASSOCIATION NEWS

らいちよう

No. 153

2025.5.26 発行

(公社) 岐阜県理学療法士会 広報誌 <https://gifu-pt.jp/>

第35回岐阜県理学療法学会学術集会の参加を
お待ちしております!!



目次

巻頭言..... 2～3
学術集会案内..... 4～5

活動報告..... 6
会員の声..... 7



岐阜を 盛り上げましょう

第35回岐阜県理学療法学会学術集会
会長 小林 弘明

第35回岐阜県理学療法学会学術集会の大会長を務めさせていただきます、岐阜県総合医療センターの小林弘明です。今回の学会テーマは『COLLABORATION』です。多職種・多施設が協力し合うことで、より良い学会の実現を目指しています。

本学会では、幅広い分野の理学療法士が興味を持って参加できるよう、多領域にわたる教育講演を企画しました。また、県内の認定・専門理学療法士の先生方にも、この機会を通じてぜひご活躍いただきたいと考えております。

若手からベテランまで多くの先生方にご参加いただき、交流を深めていただくことで、新たなコミュニティが生まれ、理学療法士としてのさらなる発展につながる学会になることを願っています。

学術集会の準備委員は若手が中心ですが、先生方のお力添えや助言をいただきながら準備を進めております。若さゆえのアイデアや推進力を活かし、これまでにない新しい形の学術集会を目指しています。準備委員一同、全力で取り組んでまいりますので、ぜひご参加ください。

また、学会運営の改善に向け、良かった点や改善点についてご意見・ご感想をお寄せいただけますと幸いです。

どうぞよろしくお願いたします。

シンポジウム

慢性疼痛に対する総合的アプローチ

～運動療法と徒手療法のCOLLABORATION～

神戸学院大学
総合リハビリテーション学部
理学療法学科 教授

松原貴子 先生



畿央大学
健康科学部
理学療法学科 准教授

瓜谷大輔 先生

招待講演

心不全パンデミックに備える！

～心不全患者の観察方法と療養支援～



岐阜県総合医療センター
看護部

石原真由美 先生

準備
委員長



鳥澤 幸太郎

山内ホスピタル

この学会が終わった時に「おっ、岐阜もやるじゃん」と思っていただけのような面白い大会にできるように全力で準備していきます！

運営
局長



伊藤 兼

岩砂病院・岩佐マタニティ

本学会は学びになるのはもちろんのこと職種や施設、年数など垣根を超えて参加者の方々が交流し、楽しめるように鋭意準備を進めて参ります！

学術
局長



菅沼 惇一

中部学院大学

演題募集をよろしくお願ひします。岐阜県が盛り上がるように尽力します。皆様、よろしくお願ひします！

学術
副局長



大竹 康平

中部学院大学

多くの方が「COLLABORATION」できる機会を作れるよう準備を進めていければと思います。県内外問わず多くの方のご参加をお待ちしています。

財務
局長



瀬尾 健太

岐阜県総合医療センター

役員一同力を合わせて、より良い学会を目指していきます。皆様のご参加お待ちしております！

Assistant
Director



山藤 滉己

一宮西病院

若手からベテランまで皆様が「参加して良かった、また県学会に参加したい」と思ってもらえるように全力で準備していきます！

広報
局長



大野 裕也

岐阜県総合医療センター

公式HPやSNSなど皆様に有益な情報を発信していきます。こんなご時世ですので「炎上しない」をモットーに努めてまいります！

事務局
社団医療法人かなめ会
山内ホスピタル

準備委員長 鳥澤幸太郎
gpta.gakujutu@gmail.com



@GPTA35GAKKAI.GIFU

第35回 岐阜県理学療法学会学術集会 登録理学療法士更新ポイント

6月15日(日)OKBふれあい会館

学会開催

信頼関係の構築と共同作業の実践

区分2-24

第35回岐阜県理学療法学会学術集会シンポジウム

慢性疼痛に対する統合的アプローチ

～運動療法と徒手理学療法のCOLLABORATION～

神戸学院大学

総合リハビリテーション学部

理学療法学科 教授



松原貴子 先生



瓜谷大輔 先生

畿央大学

健康科学部

理学療法学科 准教授

区分7-97 疼痛管理

第35回岐阜県理学療法学会学術集会

招待講演

心不全パンデミックに備える!

～心不全患者の観察方法と療養支援～

スペシャルゲスト
SPEAKERS



岐阜県総合医療センター
看護部

石原真由美 先生

区分1-5 患者・対象者教育

第35回岐阜県理学療法学会学術集会

教育講演

理学療法におけるIT活用の最前線

～連携・共同・協働を加速するデジタル技術～

区分3-48 研究法

スペシャルゲスト
SPEAKERS



タック株式会社 ヘルスケア事業本部
医療ソリューション部
リハビリソリューショングループ

西川正一郎 先生

第35回岐阜県理学療法学会学術集会

教育講演

やりたいことを形にする パラレルキャリアのすすめ

区分13-160 コーチング・ファシリテーション

スペシャルゲスト
SPEAKERS



平成医療短期大学
リハビリテーション学科理学療法専攻 講師
広島大学
ダイバーシティ&インクルージョン推進機構 客員研究員
広島大学大学院
人間社会科学研究科 研究員

澤村彰吾 先生

後期研修 コマ

- シンポジウム「慢性疼痛に対する統合的アプローチ～運動療法と徒手理学療法のCOLLABORATION」
→ C-2 運動器系理学療法学 士会オリジナル運動器系理学療法
- 招待講演「心不全パンデミックに備える！～心不全患者の観察方法と療養支援～」
→ C-3 内部障害系理学療法学 士会オリジナル内部障害系理学療法

活動報告

スポーツオーソリティ&岐阜県理学療法士会がお届けする

健康サポートイベント

日時：1月18日(土) 場所：イオンモール各務原インター

足型測定、歩行分析、体組成測定、肩こりチェックなど、多角的なアプローチで参加者の健康づくりを支援しました。



足型測定やインソール作成を通じて、自分に合ったシューズ選びの参考にいただきました。超音波エコーで肩こりの原因を可視化し、効果的なケア方法を学ぶ機会となりました。歩行分析システム「AYUMI EYE」では、理学療法士の指導のもと歩行フォームをチェック。体組成計「IN BODY」の測定結果をもとに健康相談を行い、「生活習慣を見直すきっかけになった」との声をいただきました。本イベントを通じ、多くの方に自身の健康を考える機会を提供できました。今後も地域の皆様の健康を支える活動を続けてまいります。

(文 地域職域連携部/若山帝祈)

活動報告

R.O.U&岐阜県理学療法士会が提案する新年度から始める健康習慣

毎日5分で健康習慣 心も体も軽くなる簡単ケア

日時：2月22日(土)・23日(日) 場所：イオンモール各務原インター

本イベントでは、理学療法士が健康グッズを活用したセルフケア方法を実演・指導し、来場者の皆さまに「手軽にできる健康習慣」を体験していただきました。

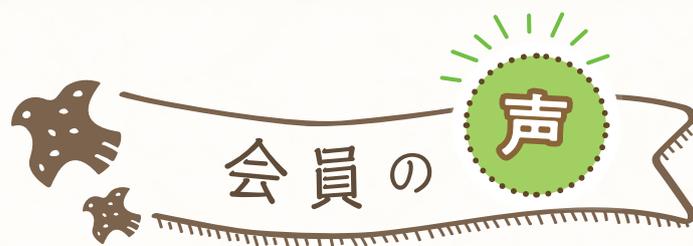


参加者の声

「短時間でできるセルフケアを知ることができ、毎日続けていきたいと思いました」
「肩こりや腰痛に悩んでいたのが、エクサガンやローラーを試せてよかったです」
「理学療法士さんに直接アドバイスをもらえて、自分に合ったケアがわかりました」

日常生活の中で「簡単に続けられる健康習慣」への関心の高さを実感しました。今後も健康維持・増進のための情報発信やイベントを企画し、「楽しく続けられるセルフケア」の提案を続けていきます。ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました！

(文 地域職域連携部/若山帝祈)



新人教育について

JA岐阜厚生連 東濃厚生病院

樋口 晃久

私は理学療法士になり、十数年が経とうとしている。私生活では友人との交流の機会や身体を動かす趣味もめっきり減り、流行りのNISAで投資をして一喜一憂し、家に帰れば家事、育児の手伝い、休日は家族サービスに奮闘する日々を過ごしている。

そんな私も今、学生指導、新人教育の壁に当たっている。

私の時代の学生実習、新人教育を世界旅行に喩えるならアマゾン奥地の部族の中にガイド無しで旅行に行った様なものであった。一言、しきたりを破れば言葉の矢が飛びかい、歓迎会では民族衣装の様にセーラ服を着させられ、流行りのダンスを訳も分からず踊らされた。その他にも猛獣やヒルの様な先輩方と楽しく共同生活していた事を思い出す。

一方で今の時代はどうだろうか、おもてなし精神いっぱいの実習プログラム、分からない事は「習っていません」と言える環境。まるで、インフラ整備が整った観光都市をガイド付きで旅行している様なものではないだろうか。

余談が長くなったが、そんな指導の壁に当たっている私に、上司が本を薦めてくれた。その本は新人指導に関する事が書いてあるのだが、その本のワードに幾度と登場し教育指導の要となる役割をはたす言葉がある。その名は「**メンター**」である。メンターとは新人や学生と厳しすぎず、優しくすぎず程よく距離をとり、意見や問題に対しては否定をしてはならない。何故、その考えをしたのか、その結果どうなるのかを一緒に考え、最善のプロセスを共に考えていく存在である。

そして、最も大切な事は信頼関係である。一昔前では学生や新人が分からない時、失敗して困っている時は、「調べておきなさい」や「反省しなさい」であったが、メンターの役割としては完全に正解でなくても、お手本となる日頃の言動や行動を見せる事が大切になり、これが信頼関係の構築に繋がってくるのだ。この信頼関係を築きながら問題に対して共に考え、答えを導き出していくプロセスこそ、新たな問題や違う環境に直面した時に、切り開いて行く事のできる「**依存型の人間**」ではない「**自律型の人間**」を育成していく上で重要となってくるのだと私は思う。

私自身まだまだ未熟の若輩者であるが、同じ境遇の方の指導の参考になれば幸いに思う。また、新人や学生達のこれからの新生活において、若いうちの苦勞や失敗、考える事こそ将来の成功に繋がると私は考える。是非、整備され、マニュアル化された理学療法の世界だけではなく、一味違った理学療法の世界を旅してみるのも悪くないのではないだろうか。

